

せポネ

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5

チャイルドライン こどもへの想いと未来への希望



写真提供：認定 NPO 法人チャイルドライン支援センター

まちの市民力

P.6

阪神淡路大震災から 30 年 世田谷で『神戸をわすれない』



せたがや
災害ボランティアセンターレポート

P.7

防災シンポジウム「マンション防災への取り組み」開催



おたがいさまビュー P.8-P.11

ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ
(<レポート>)東京さざそうライオンズクラブ協力協定締結、ご寄付のお礼

チャイルドライン こどもへの想いと未来への希望

チャイルドラインを
ご存知でしょうか



チャイルドライン 25周年記念講演会シンポジウムの様子

チャイルドラインは18歳までの子どもを対象にした子ども専用電話です。子どもが困っているときや悲しい気持ちになったとき、わからないことがあるとき、うれしい気持ちなど、誰かに聞いてもらいたいことを話せる電話です。

このチャイルドラインは世田谷で28年前に誕生し、日本中に広がった活動です。このチャイルドライン活動は全国に団体があります。全国の団体を支援しているチャイルドライン支援センターの設立25周年を記念して公開講演会が、1月18日に開催されました。この講演会を皆さんにレポートします。

チャイルドライン支援センター

設立25周年記念講演

子どもの声が社会を変えていく

〜聴き続けて25年〜

文責／田野浩美（せたがやチャイルドライン
運営委員長）

今回の講演会の開会に、こども家庭庁創設に尽力された野田聖子議員があいさつをされました。このあいさつの中で、「国の主役である子どもを抜きにして法を決めることはできない。これまで『存在していなかった』子どもが、子ども基本法ができたことで姿を現すことができた」という言葉が心に残りました。

講演会では、せたがやチャイルドライン創設グループの一人、現世田谷区長保坂展人氏と、元文部官僚寺脇研氏の二人が「チャイルドラインの原点と展望」と題してそれぞれお話されました。

チャイルドラインが誕生した時のお話がありました。昭和61（1986）年に中野富士見中学いじめ自殺事件が起きました。クラスで一人の生徒に向けていじめがあり「葬式ごっこ事件」が起き、これに学級担任も加担して、日本で初めていじめ自殺事件として社会的に注目された事件です。

た。

この事件がひと段落したように思えたころ、平成6（1994）年、またいじめを発端とした子どもの自死が発生します。

愛知県の中学生が遺書を残して自死しました。これも暴力や暴言、恐喝などひどいいじめを受けたことが原因でした。学校側は把握していたにもかかわらず対策が取れないままの最悪な事態です。

このような事件に対して当時のメディアは、どのようにいじめられ自死をしたのかを調べて過激に報道を繰り広げ、影響をうけた子どもたちが連鎖するように自死をする現象まで起きていました。

当時の文部省は第15期中央教育審議会に当時世田谷市ランテア協会理事長の牟田悌三さんを招集しました。牟田さんは世田谷の子



のだせいこ
野田聖子衆議院議員

どもに関する活動をする人たちを呼び集め、世田谷の子どもを守ることはできるのか、世田谷のおとなたちにできることは何かを、週に1回平日の夜7時から会議をすることを始めました。毎週毎週話し合い、その時に集まった人たちが「子どものいじめをなくしたい」と『世田谷こどもいのちのネットワーク』を立ち上げました。この時の会議には私も途中から参加するようになり、何時にこの会議は終わるのだろう、というほど毎回熱のある議論が行われたことを覚えています。

その団体が『シンポジウム いじめよ とまれ』を1996年に3回実施、その中から子どもたちの声を聴くために立ち上がったのが、『せたがやチャイルドライン』です。

3回目のシンポジウムに集まったおとなたちに保坂さんが「チャイルドラインを日本に持ってきたら参加したいと思いますか」と問いかけたときに300名ほど集まった人の半数ほどの手が挙がりました。圧巻でした。

せたがやチャイルドラインが 生まれたとき

おとなたちがたち上がった瞬間です。子どもたちをいじめから、自死から、守ることを約束したんだと思います。そして、牟田さん、保坂さん、世田谷区児童館職員の水畑勉さん、日本初のプレイリーダー天野秀昭さん、そして、のちの『せたがやチャイルドライン』初代運営委員長の星野弥生さんがイギリスへ行き、チャイルドラインUKのレクチャーを受け、世田谷で開設に向けて準備を進めました。



チャイルドラインUK訪問時の写真

その後、受け手の養成研修を実施し、スーパーバイザー集団とともに1998年、1999年に期間限定で開設したのち、2000年から常設となっています。

せたがやでチャイルドラインが実施された年、全国にもこの活動を広げよう、という想いの国会議員が、『チャイルドライン支援議員連盟』を立ち上げました。保坂さんと寺脇さんのご活躍のおかげです。現在では全国に69団体、ボランティアは約20000名を数える活動に広がりました。全国に



登壇される寺脇さんと保坂さん

ひろがったからこそ、フリーダイヤルの実施ができることになりました。

保坂さん、寺脇さんの講演の後には講師のお二人とチャイルドライン支援センター理事のお二人の4人でパネルディスカッションが行われました。これからの課題とチャイルドラインへの期待が話されます。

「子どももの権利条約」が国会になかなか浸透しない、という声がありました。もっと根付かせるためには、おとなたちへの理解を深めていく必要があること、市民となるため子どもへの教育がなければ自己肯定感を高め、自分で考える力がつかない、など日ごろ私たちも感じていることが言葉になって語られました。また、今の子どもたちに必要なものは？という点で話されたことは、

- ・子どもが育っていく可能性を広げたい
- ・「自己選択・自己決定」のため
- ・に正しい情報を得なければならぬ
- ・い
- ・大学に行けば安定する、という時代ではなくなった。教育システム

ムを変えなければならぬ時代。少子化や不登校などが背景にある。

- ・体験して学びを得る育ちが必要になる。「町」が子どもを育てる学校に！

- ・「子どものため」と言って子どもからすべてを奪う大人の存在がある。

- ・子ども側に「自分の意見を言っている」という育ちが必要。地域おこしに子どもを交えての提言を作成するなど、子どもの参加を促していく必要がある

などの意見が出てきました。チャイルドラインが今後どうなっていくのか、2050年代の世界は想像ができません、想定外の事態があったときにどう対応するのかが今後の課題だというお話もありました。

最後に保坂さんからは、「今の子どもたちには繋がっていることの苦しさがある。放課後に学校から離れていてもネットで常につながっている感覚がある。『ネットの毒を抜く』ことを考えなければならぬ時期になっているのではないか。」

寺脇さんからは、「子どもにはネット以外の人付き合いができる場所、責任なく話せる場があります。必要と思われる。」という言葉で、パネルディスカッションが終了しました。

2日目 全体ワークと分科会

1日目の熱いお話を受けて、2日目の1月19日はチャイルドライン関係者でワークシヨップと分科会を行いました。午前の全体ワークではテーマが、『チャイルドラインのこれからを考える』、午後の分科会はクローズで実施団体の活動者が参加しました。

全体ワークもクローズですが、チャイルドラインに関わる人たちが夢を語り合い子どもと一緒に未来を創るために、私たちが未来を想像する、という課題で行われました。この課題のために9人から10人のグループを作り、ワークに取り組みます。ワークの中でも面白かったのは「10年後のチャイルドライン」に問いかけたいことを考えてグループセッションで話し合うところです。本当にたく

さんの意見や夢が出てきました。例えば

- ・チャイルドラインで使うツールは何になっっていますか？
- ・VRを使って話せていますか？
- ・チャットは音声自動入力が使えようになりましたか？
- ・子どもの参画はすすんでいますか？
- ・どんな人がボランティアをしていますか？
- ・子どもにも必要とされていますか？

最初は難しいと思われた課題でしたが、グループで話しているうちにどんどん意見が出てきました。これはボランティア活動をしている私たちの夢につながるものです。そして、その夢を通してチャイルドラインの運営の問題と、子どもたちと繋がるツールへの希望と、社会への課題が現れました。

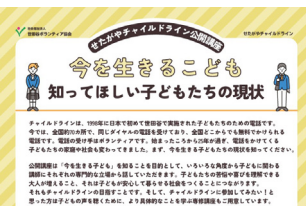
グループで話されたものを二つのグループの代表同士でシェアしあい、フィッシュボウルという手法で混ぜ合わせ拾い上げていく、という作業をしました。この作業もとても楽しいものでしたので、今度世田谷でも実施してみたいと

思います。

せたがやチャイルドラインで子どもたちの声や活動は、全国で同じような思いを抱いた仲間と一緒に活動していることを実感できる記念講演会とワークになりました。チャイルドラインの仲間たちと今後も活動していく力が得られたようでした。

せたがやチャイルドライン 公開講座のお知らせ

5月からせたがやチャイルドライン公開講座を開催します。子どもと直接かかわってきた講師たちが、子どもたちの声を聴くために役に立つお話やワークをします。詳細は左記二次元コードからご覧ください。



阪神淡路大震災から30年 世田谷で『神戸をわすれない』



上映後に感想を共有しました。

写真左から筆者星野弥生、村本勝氏、高木史雄氏、猪熊弘子氏

1995年1月17日5時46分起こった阪神大震災から今年で30年。同じような大都市での災害は東京に暮らす私たちには大変な衝撃でした。世田谷からもさまざまなかグループ、個人がかの地にボランティア活動に赴きました。

一年後の1月に立ち上げた、「神戸をわすれない・世田谷」で上映したのが「鷹取からのビデオレター」。震災直後の様子を30分に収めたメッセージでした。青池憲司監督＋「青池組」はその後4年3か月にわたり、長田区の鷹取・野田北部地区を定点に据え、まちの復興と再生の様子を収めた記憶のための14巻の連作ビデオ「人間のまち」鷹取・野田北部の人びと

を制作。その映像を世田谷で上映し、被災地での経験を知り、学び、地域でのまちづくり・人の関係づくりにつなげたいと続けてきたのが「神戸をわすれない」でした。住民さんたちが力を合わせ、行政との粘り強い対話を繰り返していく、まさに民主主義の原点のような話し合いの場はそのまま「まちづくり」のあるべき姿を私たちに伝えるものでした。

2月9日に開催した38回目の「神戸をわすれない」では、14巻の「証言編」を上映。映画編集者である村本勝さんは「次なる被災者となる」私たちに今こそ見てほしい、とイチ押し。発災からの三日間に人びとが何を見て、何を感じ、どのように行動したのかを11人が生の声で語ったものです。

倒壊して押しつぶされた一階からの「助けて！」の声に、通りがかりの被災者の人たちが必死で救出する話にはハラハラし、早朝の「ノコギリないか？」の問いに、どこからともなくノコギリが現れる「奇跡」にホッとしたり。唯一の女性である高木邦子さんの「そ

んなことしたらいかんというのはわかるけど、どうしても常日頃付き合っている人が先になりますよね」という言葉に思わずうなずきます。「大事なこと」は、食料品などの備えに加え、「近所のコミュニティの大切さ」。全編を通じて伝わるメッセージです。「まちづくり協議会」が震災前から機能していた野田北部には、住民と行政が渡り合える「場」の基盤がありました。

上映後、若林町会防災部長の高木史雄さんは「コミュニティのない東京で直下型地震が起こったら、インフラの被害と老朽化でまちがいなく家は倒壊し、火災は起こる」と警告。震災時に西宮に狂んでいたジャーナリストの猪熊弘子さんは「鷹取のまちが焼ける臭いに、幼い頃、栃木の自宅が焼けた時の記憶がフラッシュバックされ、パニックになった」と語りました。38回続け、同じ映像を繰り返しみて学ぶことは限りなくあります。「想像力」をもって「映像」と「体験」が語る生の声に「共感」したいと毎年感じる会です。

せたがや災害ボランティアセンターレポート

防災シンポジウム 「マンション防災への取り組み」開催

1月18日に三茶しゃりなあどホールで、世田谷区と共催で防災シンポジウムを開催しました。今回は7回目の開催で、これまで避難所生活と保健衛生、子どもたちと災害、在宅避難と遠隔避難などその時々状況に応じたテーマで議論し、課題提起してきました。

今、区民の約半分の方がマンションなど集合住宅に住んでいる



パネルディスカッションの様子

とされています。建物自体の耐震化が進む一方で、設備や管理体制、地域住民との連携などのリスクもあることを念頭に、「マンション防災への取り組み」を今回のテーマに設定しました。区もマンション防災を重要な課題として取り組みを強め関心も高く、100名を超える参加がありました。

基調講演の講師は、地域の町会長を務め、区内の大規模マンションにお住まいの防火・防災管理者でもある石川伸雄氏と、株式会社小野富雄建築設計室室長の小野富雄氏のお二人。石川氏からは、町会とマンション両方の事情に精通されている立場から取り組みを紹介いただきました。建物の耐震診断や耐震補強工事の設計などにお詳しく、区のマンション交流会の講師を務められる小野氏からは、様々な課題提起をいただきました。

基調講演の後、横山センター長も加わってパネルディスカッションを行い、地震などの災害について知り、自分が住むマンションの

現状を知ることの大事さ、災害への備えを事前に進めることがいざというときに役立つこと、災害への備えと協力体制づくりがマンションと地域コミュニティの両方が必要であるなど、貴重な示唆がなされました。

当日は能登半島被災地支援ボランティア派遣募金も行い、短時間で約3万円のご協力をいただくことができました。お寄せいただいた募金は、せたがや災害ボランティアセンターが継続的に取り組んでいる能登半島の被災地支援に活用させていただきます。

シンポジウムの様子はせたがや災害ボランティアセンター公式YouTubeチャンネル(左記二次元コード)からご覧いただくこともできます。参加、協力いただいた皆様、ありがとうございました。



買い物支援ボランティア募集

上北沢に住む軽度の知的障害がある女性が買い物をする時に、一緒に同行してくれる方を募集します。食や栄養に興味・関心のある女性の方をお願いしたいです。(特に資格は必要ありません) 地元の商店などに詳しく方を歓迎いたします。

- 日時／主に日曜・祝日など月1くらいで1～2時間
- 場所／上北沢を中心とした京王線沿線のスーパー・商店街など
- 交通／京王線沿線 ●条件／女性限定、交通費支給
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 池田 TEL：03-6411-4007
メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

車いす使用の男性の生活と仕事のサポートをしてくださる方を募集

重度障害者で電動車いすを使用の60代男性が、ご家族が不在の時間、自宅で身の回りの家事と仕事のサポートをしてくれる方を求めています。掃除、布団干し、資料・文献の整理などをお願いしたいです。「障害学」をはじめ、社会福祉分野の研究をおこない、大学などで講師をしている、明るく楽しい方です。年齢・性別不問。資格不要。日時は応相談。詳細はお問い合わせください。

- 日時／応相談 ●場所／千歳台3丁目
- 交通／小田急線千歳船橋駅または京王線千歳烏山駅
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 久我 TEL：03-6411-4007
メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

中1女子の学習サポートをしてくれる女性を募集します

中学校1年生の女の子の学習サポートをしてくださる方を募集します。教えて欲しいのは、主に英語と数学で、去年の秋頃は英作文の作り方や比例反比例で苦戦していました。女の子のペースに合わせて、自宅で楽しく勉強を教えてくれると嬉しいです。詳細はお問い合わせください。

- 日時／月・火・木・金は19時30分以降、水は16時以降、土・日曜は要相談
- 場所／自宅 ●交通／小田急線千歳船橋駅から徒歩5分
- 条件／女性限定、交通費500円まで支給
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 久我 TEL：03-6411-4007
メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

【急募】夕方に4歳の男の子を幼稚園から自宅まで電動自転車ですべて送ってくれる方を募集

駒沢大学駅周辺で2人のお子さんを育てるお母さんが、4歳の男の子を幼稚園から自宅まで電動自転車でお迎えして下さる方を探しています。現在、お母さんは大きな病気を患っており、薬の副作用で体調が優れない状態です。日々工夫をしながら送り迎えをしていますが、週1回でも手伝っていただけると助かります。男の子は、人とお話することが大好きで自転車に乗りながら幼稚園での出来事を笑顔で話してくれます。その他詳細はお問い合わせください。お手伝いいただける方のご連絡をお待ちしております。
(お迎えの流れ)

17時までにご自宅からご家族の電動自転車を使い幼稚園に向かった後、男の子を乗せご自宅までお送りする流れになります。

- 日時／火～金曜の16時45分～17時30分の間(週1回でも可)
- 場所／駒沢大学駅周辺の自宅から幼稚園までの往復
- 交通／自宅は東急田園都市線駒沢大学駅から徒歩5分以内。幼稚園は自宅から自転車で10分以内 ●条件／女性
- 問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 小畑 TEL：03-5712-5101
メール：obata@otagaisama.or.jp

【急募】3歳の女の子の保育園のお迎えをサポートして下さる方を探しています！

お母さんがこれまで一人で頑張ってきましたが、病気を患ったため、これ以上無理ができなくなってしまいました。女の子は、機関車トーマスや乗り物が大好きな明るいお子さんです。送迎の内容は、保育園にお迎えに行き、おしゃべりを楽しみながら20分程度の道のりを帰ってきていただくものです。送迎時は徒歩ではなく、用意してあるベビーカーに女の子を乗せて安全です。週1回でも手伝っていただくと助かります。

- 日時／月・水・金曜の17時～18時15分の間に保育園までお迎えし自宅まで送迎
- 場所／東急大井町線等々力駅近辺から上野毛駅近辺
- 条件／女性、交通費は出ません。
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

「ふれあいフードドライブなかもち」仲間を募集

今年9年目のふれあいカフェなかもちと同時開催の街の支え合い活動として、コロナ禍に社会福祉協議会との共催、日本赤十字社と地元町会のご協力により、5年前に活動を始めました。これまで、上野毛地区内の掲示板で広報し、食材や消耗品のご寄付を受け付けると共に、カフェでお出しする手作りお菓子や、クラフト品のお買い上げ、現金でのご寄付をお預かりし、食材に替えて、社協のネットワークで、ご入用の方やこども食堂へのご提供をしてきました。

今回、ボランティアとして活動を支えていたメンバー1名が家庭の事情で継続困難となってしまい、新たにボランティアとして活躍いただける方を探しています。フードドライブ活動に興味のある方の連絡をお待ちしております。

- 日時／毎月第3土曜15時00分～16時30分（8月はお休みです）
- 交通／東急大井町線上野毛駅下車約12分、または東急田園都市線用賀駅下車約18分
- 問合せ／ふれあいフードドライブなかもち 担当 芳賀 TEL：090-3209-2527
メール：noriko.k.haga@gmail.com

世田谷区いずみ学級（知的障害者の青年学級）でボランティアしませんか？

いずみ学級は、知的障害のある人たちと、彼らを支え共に学び、活動するボランティアにより運営する学級です。一年を通してレクリエーションやクラブ活動、バスハイク、クリスマス会、ミーティングなどの活動をしています。学生や社会人、主婦など、老若男女問わずさまざまな人たちがボランティアに参加しています。資格等は不要です。知的障害のある人たちと関わることに関心のある方なら、誰でも参加できます。

ボランティアの募集は年間を通じて行っています。詳細は、世田谷区公式ホームページから、ページIDに3587を入力してご覧ください。

- 日時／月1～2回、日曜の9時50分～15時30分
- 場所／世田谷中学校、八幡中学校、芦花中学校（外出行事もあります）
- 交通／世田谷中学校：東急世田谷線若林駅徒歩10分
八幡中学校：東急大井町線九品仏駅徒歩8分
芦花中学校：京王線芦花公園駅徒歩8分
- 問合せ／世田谷区教育委員会事務局生涯学習課 いずみ学級担当
TEL：03-3429-4259

上記掲載記事は2月16日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

ボランティア始めませんか？～「はじめカフェ」参加者募集～！

「TOY 工房どんぐり」を知っていますか？ TOY 工房どんぐりは、世田谷区で40年にわたり活動しているボランティアグループです。子供が思わず手にとって遊びたくなるおもちゃ、自分にも出来ることの喜びを味わえるおもちゃを、布で製作しています。「ボランティアって色々あるんだな」と知っていただき、ボランティアを始めるきっかけづくりになればいいと思います。実際の活動を見たりお話を聞いてみてください。ご興味のある方は活動に参加可能です。

- 日時／3月21日(金)13時30分～15時30分
- 場所／北沢ボランティアビューロー2階 ●交通／小田急線梅ヶ丘駅より徒歩5分
- 募集／10名 ●参加費／300円(資料など)
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー 担当 近藤 TEL：03-3420-2520
メール：kitabora@otagaisama.or.jp

リサイクル市（バザー）を開催します！

長らくお待たせしました。世田谷ボランティアセンターのバザー「リサイクル市」を開催します！ バザーの収益金は、ボランティア・市民活動推進事業の運営費用として活用し、『おたがいさま』で結ばれた地域づくりに役立てます。ぜひ、掘り出し物を探しにいらしてください。

※整理券を、当日9時45分から配布します。配布時間前にお並びになるのは、近隣の方のご迷惑になりますのでご遠慮ください。

- 日時／3月22日(土)11時00分～14時00分
- 場所／世田谷ボランティアセンター(世田谷区下馬2-20-14)
- 交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅から徒歩約12分
- 問合せ／世田谷ボランティアセンター バザー担当 TEL：03-5712-5101

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦勞をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。現在は、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。

- 問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト(世田谷版G B E R「ジーバー」)で結び付け、ボランティア活動を支援します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



東京さぎそうライオンズクラブと協力協定を締結しました

協会は地域貢献や社会貢献に取り組む多くの団体と協力協定を締結し、2024年の能登半島被災地支援活動にも多大の協力をいただいています。

このたび、東京さぎそうライオンズクラブ（石川香世子会長）と「せたがや災害ボランティアセンターの活動支援に関する協定」を締結し、平時から相互連携していくことを確認しました。

今後も様々な団体と幅広く連携・協力を図っていきます。



ご寄付のお礼

世田谷ボランティア協会は、毎年多くの方からご寄付をいただいています。今年度も、北烏山の三栄製菓株式会社様から多額の寄付をいただきましたので感謝状をお渡ししました。改めて、いつも私たちを支えてくださる方々に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

<写真>

三栄製菓株式会社 藤森社長（中央右）、藤森専務、当協会横山理事長（中央左）、若林事務局長



もっと語ろう不登校 part.298

これまで30年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

●日時 / 3月8日（土）14時～

●場所 / 人の泉・オープンスペース”Bel”（世田谷区赤堤1-15-13）、またはZOOM会議

●交通 / 小田急線豪徳寺駅徒歩8分、世田谷線山下駅徒歩6分

●条件 / 事前申し込み制

●問合せ / 世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 佐藤
TEL : 090-9248-1355 メール : yurinoki11513@gmail.com

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ / 世田谷ボランティアセンター TEL : 03-5712-5101

メール : v-soudan@otagaisama.or.jp

市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めたい方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方はお問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。（原則として事前予約制です）

●問合せ / 最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

上記掲載記事は2月16日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
- 災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
- リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
- 訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
- 介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
- 障害について ▶ 【ぼーとせたがやスペース ココカラ。】

ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こうい
ったボランティア情報が読みたい！」などもございましたら、
お気軽にお寄せください。



協会ホームページ、
Facebook、Instagram は
こちらの二次元コードから
ご確認ください！



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。